

ミニ企画展

# 村田宗右衛門

## とその遺産



村田宗右衛門（3代目）

初代村田宗右衛門は近江国（現在の滋賀県）出身で、文政12年（1829）頃現在の石岡地区に住みはじめたようです。醸造業を営み「富士一山」という銘柄の日本酒を販売していました。その後、醤油業も開始し、2代・3代と家業は受け継がれました。江戸末期から明治時代にかけては江戸から仙台までの街道中で最大の豪商といわれていました。

この度、平成26年9月6日～28日まで村田家より石岡市に寄贈を受けた資料が漆器を中心に茨城県立歴史館のテーマ展「漆の世界」で展示されることとなりました（詳細は歴史館にお問い合わせください）。石岡市ではこれに合わせ、下記の通りミニ企画展を開催いたします。

記

会場：石岡市民俗資料館（石岡市総社1-2-10 石岡小学校敷地内）

開催期間：平成26年9月6日～10月26日まで

開館時間：午前9時

※土・日

平成26年のものです！

ご予約ください。

お問い合わせ先：0299-43-1111（文化振興課 内線1324）

## 村田宗右衛門とその遺産

### ◆目次

1. はじめに	1
2. 村田宗右衛門について	2
3. 村田宗右衛門と醸造業	3
4. 村田宗右衛門と石岡の産業革命	4
5. 村田宗右衛門と郵便局	5
6. 展示の様子	7

### ◆例言

・本冊子は、平成26年(2014)9月6日～10月26日を会期として開催した石岡市民俗資料館（現石岡市立ふるさと歴史館）のミニ企画展の展示解説をあらためて冊子にまとめたものです。当時の展示の様子を極力復元するよう努めました。

・展示及び本冊子の編集・執筆は、石岡市教育委員会 文化振興課 担当 小杉山大輔が行いました。

### ◆参考文献

1984 『市制30周年記念 石岡の歴史』石岡市史編さん委員会

1988 『石岡市史』下巻 石岡市史編さん委員会

2001 『興国山清凉寺史』開山五百年記念事業実行委員会

## 1. はじめに

石岡市教育委員会では平成23年度に石岡市で所蔵している民具の再整理を行いました。これらの資料のうち、村田家から寄贈を受けた漆器がこの度、茨城県立歴史館のテーマ展「漆の世界」で展示されることとなりました。

これにあわせて、石岡市教育委員会では、今回のミニ企画展を計画しました。郷土の偉人からみた石岡市の歴史の一端をご理解いただければ幸いです。

また、今回の展示に際し下記の個人・機関からご協力をいただきました。心より御礼申し上げます。

大西和子・木本挙周・曾根田隆光・原口知武

石岡ハイヤー・茨城県立歴史館・牛久市教育委員会・清涼寺（敬称略・五十音順）



※ スペースの関係で展示できなかった資料です。中央の文字は「鶴」と読むようです。村田家から寄贈いただいた資料にはやはり「鶴」と書いたお銚子もあることから、実際に流通していた銘柄と思われます。

## 2. 村田宗右衛門について

初代村田宗右衛門（むらたそうえもん）は明和7年（1770）近江国（現在の滋賀県）に生まれ、文政12年（1829）ごろ常陸府中に移り住みました。

石岡で醸造業を開始し、「富士一山」という銘柄で日本酒を販売します。その後、醤油の販売も始め2代目で水戸街道中最大の豪商といわれました。

3代目となると醸造業を廃業する一方で、明治6年には石岡市で最初の郵便局を開設します。その後、蒸気機関を使った精米所を設立し注目を浴び、また郵便局にていち早く電話を設置するなど積極的に石岡の産業を推進していきます。

4代目が若くして亡くなると5代目が幼かったためその間、勝次郎が郵便局の後を継ぎます。この勝次郎も石岡電気に出資するなど石岡の発展に貢献し勲6等を受けました。

5代目まで代々郵便局長を続け、宗右衛門も6代目まで続きました。

## 3代目村田宗右衛門について

3代目村田宗右衛門は自宅の敷地に「成趣園」という公園を作り、一般に公開しました。石岡に電話が開通したことを祝う祝賀会もここで催されています。また、火事で焼け出された人にはバラックを提供するなど「情けの近宗」と呼ばれ親しまれました。

晩年は成趣園に隠居所を作り余生を送りました。明治の三筆といわれる巖谷一六（いわやいちろく）に師事し、一峯と称しています。元々、派手で社交的であった宗右衛門は有栖川宮や志筑藩主本堂家、石岡藩主松平家に対して御用金を納めていました。このような関係で東京方面からの来客が多く、家族が多忙を極めたそうです。

このような宗右衛門の生活を反映してか、村田家の資料からは優雅な家具や教養の高さを物語る書籍が多くみられます。



「近宗醸造」看板

近宗とは近江屋の宗右衛門の意。村田家は元々近江商人でした。これは、茨城県立歴史館のテーマ展「漆の世界」で展示されたものです。

### 3. 村田宗右衛門と醸造業

村田家は江戸時代末期に常陸府中（現在の石岡地区）に住み始め、醸造業を開始します。まず、「富士一山」という銘柄で日本酒の販売を始め、その後醤油の販売もしました。明治30年ごろまで醸造業は続けられたようです。

村田家より寄贈を受けた資料を平成23年度に再整理したところ、「旭」と書かれたラベルが確認されました。布に絵と共に描かれているため、記念品などの可能性もありますが石岡市では従来確認されていない銘柄です。

「富士一山」とは別の銘柄の可能性もありますが、英語が書かれていることから輸出用に銘柄を変えたのかもしれませんが。



「富士一山」のラベル



「旭」のラベル

## 4. 村田宗右衛門と石岡の産業革命

石岡市では江戸時代以来の豪商や有力者が資本となって、製糸業や銀行業・電気供給業・鉄道業などが起こります。常磐線（石岡駅）は明治28年、大正13年に鹿島参宮鉄道が開通、石岡銀行は明治22年、石岡電気が明治44年に設立されています。製糸業は明治20年ごろから石岡製糸所・熊岡製糸所といった機械を使った工場が設立されはじめます。

これらの産業に先立って3代目村田宗右衛門は明治14年に村田精米所を設立しています。これは蒸気機関を使った精米所で、酒の醸造に必要な米を精米する工場です。これにより、従来の方法では50人雇っても挽き米の完成に200日要していたものが、3人程の工員で100日以内に仕上がる上に品質も向上したそうです。

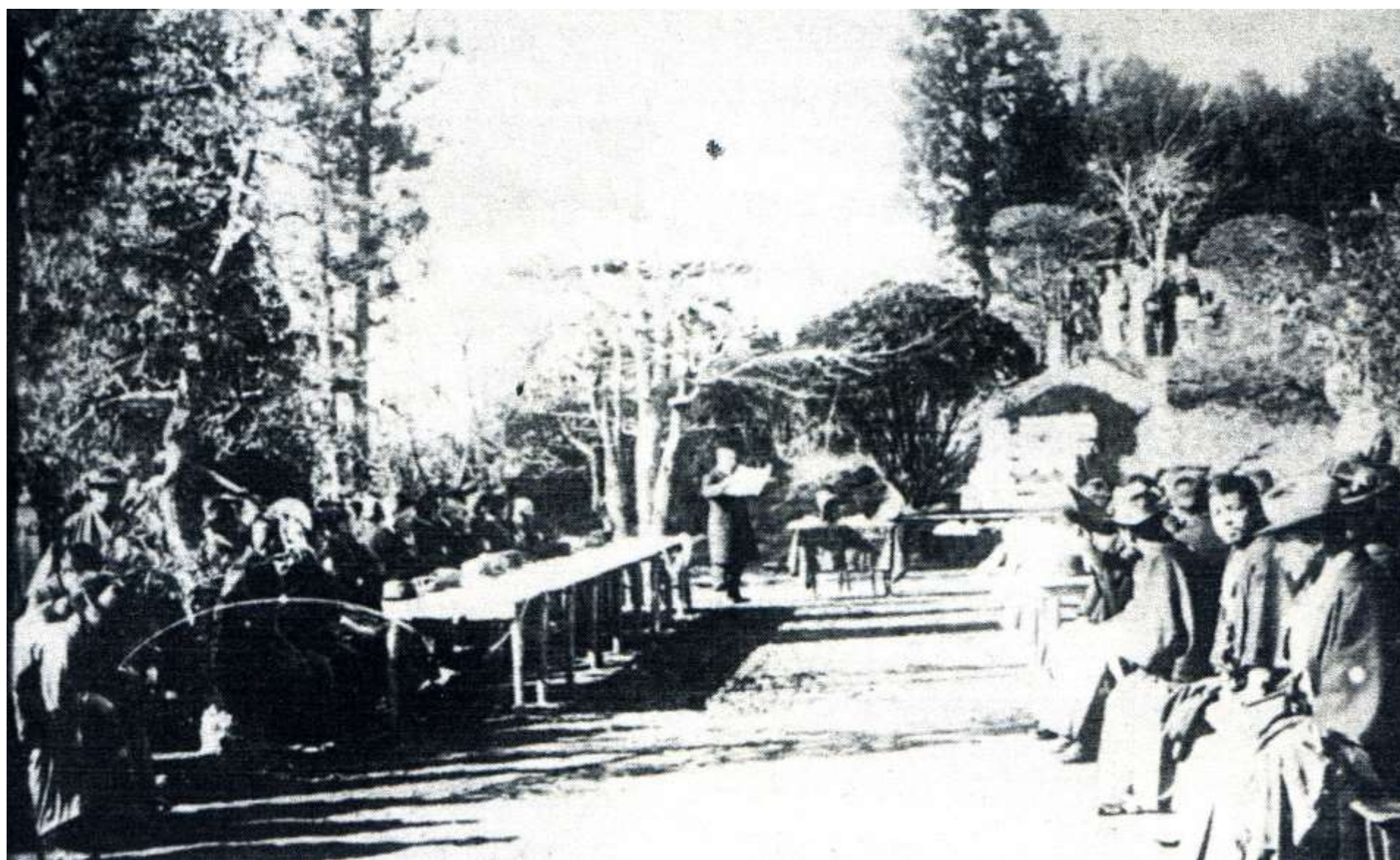
3代目宗右衛門がモデルとされる地蔵です。清凉寺に現存しています。3代目宗右衛門は火事で被災した人にバラックを提供するなど「情けの近宗」と言われていました。彼の人柄がしのばれます。



## 5. 村田宗右衛門と郵便局

日本の郵便制度は明治4年、イギリスの制度を手本として前島密により導入されています。石岡市内では宗右衛門が石岡郵便局長を明治6年に前島密より任命されており、明治11年には30,673通の手紙を配達し、21,361通の手紙を発信しています。石岡市では最初の郵便局であり、村田家の手は離れていますが現在でも守木町郵便局として営業しています。

また、この郵便局では明治41年に電話通話業務を開始しています。その後同42年には市内40ヶ所に電話が設置され、それを記念するセレモニーが宗右衛門が建設した公園である「成趣園」で盛大に行われました。



電話の開通を祝うセレモニーの様子（成趣園）

成趣園（せいしゅえん）は3代目宗右衛門がつくり、一般に公開した公園。





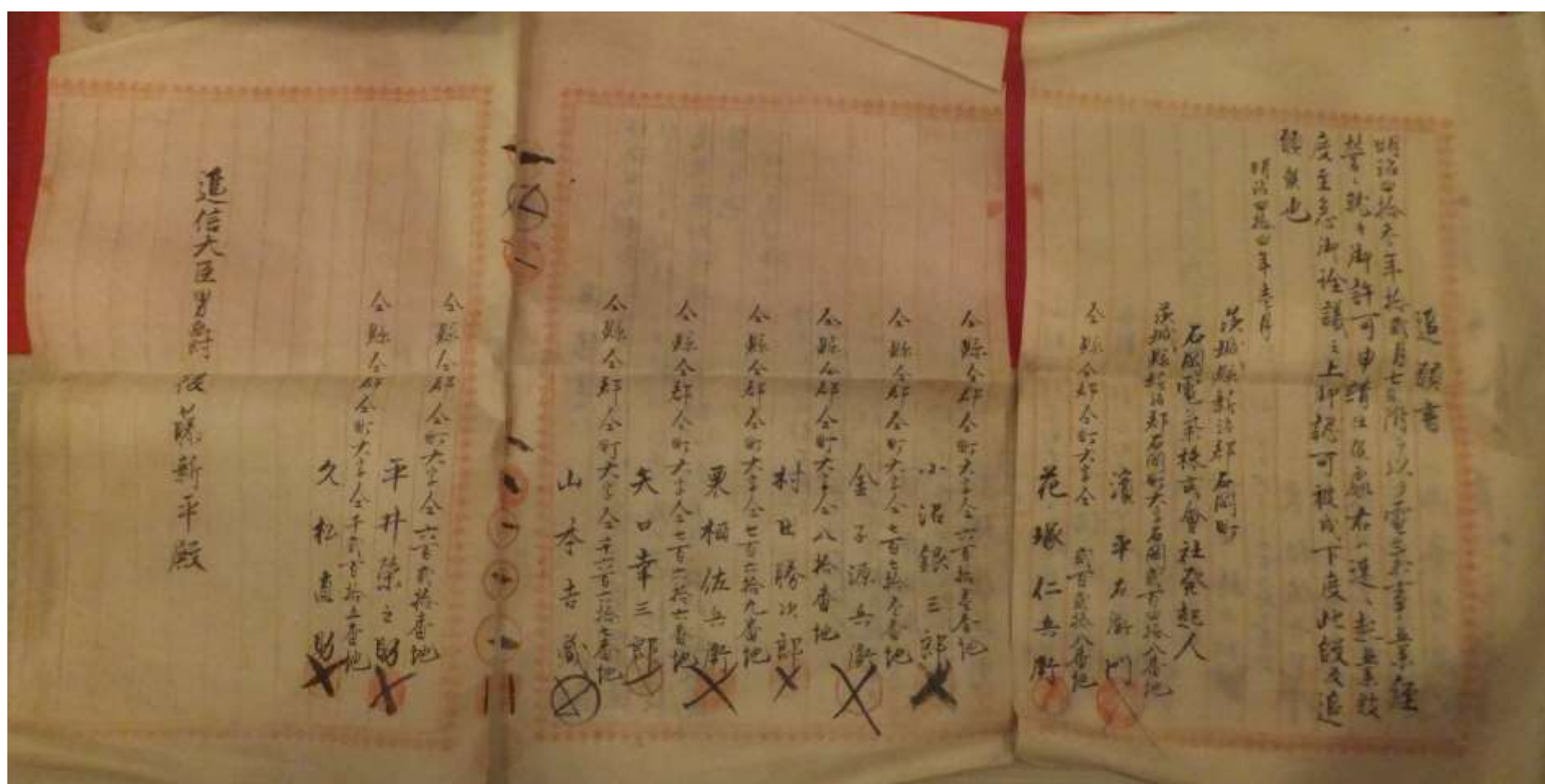
## 6. 展示の様子

### ① 明治44年「石岡電気株式会社」設立追願書

石岡市史によると石岡町の有力町人が石岡町一円に電力の供給を行うため明治43年に石岡電気株式会社の設立願がだされています。この資料は追願書とあるため、より早く許可がおりるよう求めた書類と思われます。「浜平右衛門」「山本吉蔵」「金子源兵衛」など当時の石岡の近代化に大きく貢献したメンバーが名を連ねており、その中に村田勝次郎の名もあります。

なぜ原本があるかは不明ですが複数作成したのでしょうか。結局、同年5月に許可がおりたためか、印鑑の部分に×がつけられています。

尚、出願先の「後藤新平」は関東大震災後の東京都の復興や台湾経営に手腕を発揮した人物として有名です。



### ② 木箱（墨書入り）



漆器の入っていた木箱です。墨書で「ストックビール」と書かれています。これは「ストックビール」というドイツ製ビールのことです。現在の日本のビールの原点となるものです。醸造業を営む村田家が文明開化にあわせいち早くとりよせたのでしょうか。

### ③ 書籍

石岡市では村田家からの蔵書 300 冊以上が寄贈されており、歴代宗右衛門の教養の高さがうかがえます。その中の一冊に嘉永年間の村田宗右衛門の署名（自書）が存在しました。幕末の年号であることから2代目のものと思われる。



### ④ 国府地区公園



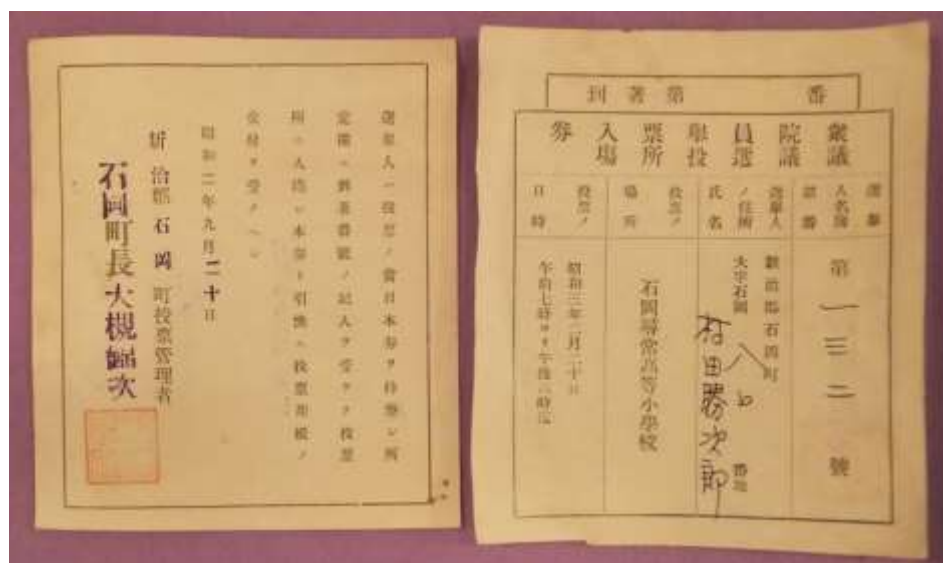
国府公園周辺がもともとの村田家の敷地でした。専売公社建設のため村田家から土地を寄贈され、現在は公園となっています。

### ⑤ 村田家墓所（清涼寺）

村田宗右衛門代々の墓石が現存し、その業績が刻まれています。中央の巨大な墓碑は2代目のもので土佐藩出身の志士・土方久元が「顕徳」の題字を書いています。



## ⑥ 選挙投票所入場券



村田家から寄贈いただいた資料には昭和初期の選挙投票所入場券が複数含まれています。昭和3年2月20日の衆議院議員選挙は最初の普通選挙が行われた記念すべき選挙ですが、有権者はそれでも25歳以上の男子に限られており、全人口の20%に過ぎませんでした。

石岡町長大槻錦次は石岡駅の八間道路・御幸（みゆき）通りの建設に尽力した人物。

## ⑦ 村田宗右衛門と漆器

漆器は日常的に使用されるものというよりは冠婚葬祭で使われる特別な器でした。村田家の資料には赤や黒、黄などの漆器のほか木の木目を生かして器を作成する春慶塗りの漆器が多く含まれるのが特徴です。

それよりも今回注目したのはこれらを収納した木箱です。展示品には「七拾人前内貳拾人前（70人前の内20人前）」と書かれています。当時、70人もの客が来ることを想定して、器をそろえていた（それだけ家が大きかった）ところに村田家の勢いを感じます。



初代～三代目村田宗右衛門関係年表(石岡市史より)

年号	西暦	事象
明和 7	1770	初代宗右衛門、近江国（現在の滋賀県）日野町下鍛冶町に生まれる。
文化 4	1807	二代目誕生。
文政 12	1829	常陸府中に移り住む。
天保 4	1833	初代没（64 歳， 清涼寺）。
天保 14	1843	三代目誕生。
慶応元	1865	二代目没（59 歳， 清涼寺）。
明治 5	1872	戸長， 三等郵便局長を拝命。
明治 6	1873	石岡郵便局開設（石岡町で最初の郵便局）。
明治 12	1879	郵便貯金事務を開始。
明治 14	1881	蒸気機関を使用した精米所を設立， 全国的に注目される。
明治 19	1886	消失した清涼寺を再建。
明治 24	1891	電信業務を開始， 石岡郵便電信局に改称。
明治 26	1893	小包郵便事務を開始。
明治 30 ごろ	1897	酒・醤油業廃業。
		屋敷 2000 坪を専売局出張所建設のため大蔵省に寄付（現在の国府公園）。
明治 34	1901	三代目没（59 歳， 清涼寺）。葬儀が盛大にとり行われる。
明治 37	1904	再び石岡郵便局と改称。
明治 41	1908	電話通話事務を開始（石岡で最初の電話）。
明治 42	1909	電話開通式を成趣園にて盛大に開催。

石岡市民俗資料館（現 石岡市立ふるさと歴史館）ミニ企画展

村田宗右衛門とその遺産

令和 3 年 4 月〇日刊行

編集・刊行

石岡市教育委員会 文化振興課

〒315-0195 石岡市柿岡 5680 番地 1

TEL 0299-43-1111（代）

石岡市立ふるさと歴史館

〒315-0016 石岡市総社 1-2-10

TEL 0299-23-2398